

こどもとスポーツ教育の未来

元プロテニスプレイヤー

神尾 米

プロフィール

横浜市出身。3歳から水泳に力を入れていたが、母の影響で10歳からテニスを始め、伊良子妙子コーチと出会う。その後、引退するまでの15年間二人三脚で歩み続けた。東海大学相模原高等学校卒業後プロに転向（ブリヂストンスポーツ専属プロ）。1992年全豪オープンをかききりにグランドスラムで活躍。1995年には自己最高WTAツアーランキング24位までのぼりつめるが、肩の故障により1997年2月全日本室内テニス選手権（単複優勝）を最後に惜しまれながらの引退。その後、ブリヂストンスポーツのイベントで全国をまわる傍ら、様々なジャンルに挑戦。2003年5月長女を出産。子育てと仕事の両立に奮闘中。



皆さん、こんにちは。ブリヂストンスポーツ所属の神尾と申します。まず、体育学部創立50周年記念おめでとうございます。

先ほど、島村先生からご紹介いただきましたが現役を引退して11年が経ちました。きっと皆さんは私がプレーしているという姿を見たことがないという方が多いのではないかと思います。私が現役だった頃の映像を流させていただいております。

先生方のように、いろんなことを研究したデータや資料ではなく、自己PRのビデオになってしまったようで、ちょっと心苦しいですが、さっと見ていただければな、と思います。

私は子どもの頃からスポーツ一筋、テニス一筋の生活を送ってきました。その中で、強い選手になるためだけではなく、人として大切なことというのをたくさん学んできたのではないかな、というふうに思っております。そのスポーツを通じて学んできたことは、強い体を作る、ということだけではなく、人として大切な礼儀やマナー、挨拶というのを、コーチや、両親、家族に教えられてきたのだと思っております。

いま、私は引退をして、楽しむテニスを広めようと全国を回って、クリニックやイベントをして

います。対象者は4歳のこどもからおじいちゃん、おばあちゃんたちを相手にテニスをしています。そのなかで、一番強く感じるの、あいさつができるこどもたちが非常に少なくなってしまったというイベントのなかで強く感じます。

それは、なぜなのだろうかと、私はスポーツを通じて、礼儀やマナーを教えてもらったはず、ですから、スポーツをやっているこどもたちはみんな礼儀正しくて、あいさつもきちっとできるのではないかというふうに思っていました。テニスをして3年も4年も経っているのに、あいさつできないというこどもが多いのです。コートの中では、コーチや先生たちが、そういう礼儀やマナーを教えてあげないといけません。両親が教えてあげるべきことと思いますが、ただ、コートの中に入ってやっているのは選手、こども一人、こどもだけです。一人になったときに、どれだけ自分を表現できて、きちっと礼儀やマナーを守ってテニスをできるかというのがとても重要になってくるのではないかと思います。大抵、一人になったときには、何もできなくなってしまう。お友達と会話をするのも、先生と会話をするのもできなくなってしまう。そういうこどもが多いように感じます。

それがなぜなのだろうという疑問を持っているのですが、その答えが、なかなか今でも見つからないというのが正直なところです。そこで海外を回ってみてこどもの育て方、スポーツにおいてこどもを育てるというやり方が少し違うところがあるというのを感じています。テニスにはグランドスラムという一年間に4つの大きな大会があります。そこではボールガール、ボールボーイと言って小さな子ども達が大人の中に一緒に入って大会のサポート、選手のサポートをしてくれています。そこで出会った子どもたちは何か違ったものを持っているように感じました。それは自己表現がはっきりとできる、大人との会話もしっかりとできる、そして一番大切なあいさつもきちっとできるのです。親から離れ一人になっても自分というものをしっかりと持てるというのはどんな世界でも通用する大切なことではないかと思います。

日本でも大人の世界に子供を入れ、自分自身で考えていく力やその中でのマナーやルールも学んでいけるのではないのでしょうか。そういった経験をどんどんさせてあげて欲しいというのが子供達の教育の中で一つ増やせたらと感じているところです。

私がテニスを通じて学んできた中で、今の生活にもすごく役に立っているなと思うことがあります。それは、忍耐力、我慢をするという力です。

プロになればいいというだけではなくて、スポーツ人生が終わった後の生活も考えなくてはなりません。一人一人の人間性を高めていくというのはとても大切になってくるのではないかなと感じます。テニスの世界を離れて、いろいろなジャンル

の仕事に挑戦させていただいたのですが、忍耐力というのはテニスのプロ生活以上に必要なことだったというジャンルもあります。ですから、こういうものも、スポーツを通じて、子どもたちに教えていってほしいと感じます。

それから、最後にもう一つ、スポーツを通じて、考える力というのも、学ぶことができると思います。上手になりたい、強くなりたいと思ったらがんばる力が出てきます。お友達に負けたくないという気持ちからもがんばる力は出てきます。ではどうしたらかんばれるのかな？と考えたとき、子供達の体の中から出てくるパワーが必要になってきます。体のパワーと心のパワーです。

では、そのパワーはどうしたら持てるのかな。体調管理が大切になってきます。しっかりと食事、睡眠、そして息抜きやリフレッシュも必要だということがわかってきます。スポーツに接していく中で自分の有用性を高めていくことができるのではないかと考えていますので、このスポーツ教育学科というのを有効活用し、そこでたくさんみなさんに勉強して頂き、たくさんいい力を子どもたちに伝えていってあげてほしいと思います。私も、イベント活動をしていますので、子どもたちにそういうすばらしい力というのを伝えていければいいのではないかなと感じております。

この先は、グランドスラムのテニスの実況解説でコンビを組ませていただいた島村先生からのすてきな質問もたくさん飛んでくると思いますのでテニスで養った忍耐力を活かし、私も一生懸命、質問に答えていきたいと思っています。ありがとうございました。